

日本語と現代ギリシア語の教育に関する諺対照研究

浮田 三郎

今回は、日本語と現代ギリシア語の諺の世界で、「教育」に関する表現に目を向け、そこに見られる比喩表現とその底に流れている「教育」に関するそれぞれの民衆の知恵と概念を対照比較考察してみた。

一般に、諺は世の中の真実、道理、理想、自然の摂理を語り、それを民衆に悟らせてくれる。こうした観点からいえば、ほとんどの諺は、何らかの形で、教訓的あるいは訓育的といった面を含んでおり、「教育」に関係していると言ってよいであろうが、ここでは、比較的明らかに「教育」に関係している概念を語っていると思われる諺を選んで、考察してみた。

全体的には、「教育・学習」に関すると言うより、教訓的、処世訓的なものが多く、ほとんどの諺がそうだと考えようである。

今回、主に論じた点は、表現形式についてであった。教育に関する諺の表現には、命令の表現形や陳述の表現形が見られるが、最も教育的あるいは教訓的と思われるものは前者であった。命令の表現形式には、命令法、禁止命令、義務表現などがある。義務表現には、現代ギリシア語では、多くの場合、接続法 (Subjunctive) が使用されるが、時には願望法と区別が明確でない場合もある。

さらに、陳述表現や比較表現も使用される。比較形式が表層表現には見られないが、これが省略されていると考えられる比較表現も見られる。

表現形式の観点から、両語の表現を対照比較してみると、両語においてほぼ同様な表現形式が見られるが、現代ギリシア語における希望を表す「願望法」は、日本語の表現に比べて特徴がある。

なお、本考察を発展させたものを、中国のハルビン工科大学での "The 5th International Conference on Cross-Cultural Communication" (第5回国際異文化コミュニケーション会議) の分科会 "Differing Underlying Conceptualizations of Learning" で口述発表した。